

交流文化学部4年 井上真理子さんが 「HSK6級」に合格

中国政府教育部(日本の文部科学省に相当)が公認する中国語検定(HSK)の6級に、交流文化学部4年の井上真理子さんが合格しました。HSK6級は「自分の意見や見解を流暢な中国語を表現できるレベル」と評され、HSKにおいて最高難易度の資格です。

井上さんは合格を受け、「中国語学修に夢中になったのは、この大学で教育熱心で親身になって相談ののってくださる先生方と出会えたから。さらに留学を通じて楽しみながら中国語に親しんだことも合格の一助となりました」とコメント。愛知淑徳大学には中国語を好きになり、学修意欲を高められる環境が整っていると晴れやかな笑顔で語りました。



フライングディスク競技 世界選手権に本学学生2人が出場

7月、ポーランドで開催されたWFD(世界フライングディスク連盟)2016世界ジュニアアルティメット選手権大会に、健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科2年の青山令奈さんと堀綾葉さんが出場しました。二人とも本学フライングディスク部のメンバーであり、数々の大会で活躍しています。青山さんと堀さんは「今回、日本代表選手として戦うことができ、とても貴重な経験になりました。フライングディスクはオリンピック種目化に向けて世界各国で盛り上がっています。私たちも一層技術を磨いて日本のフライングディスクに貢献していきたいと考えています」と力強く語りました。



交流文化学部4年 佐藤七海さんが 「地域若者チャレンジ大賞2016」で受賞

大学生が取り組んだ実践型インターンシップの事例を発表する「地域若者チャレンジ大賞」が、毎年、全国規模で開催されています。今年には本学交流文化学部4年の佐藤七海さんが地区予選を突破し、東京で行われた本大会に出場して、栄えある「中小企業経営革新賞」に輝きました。佐藤さんは、岐阜県の企業で約6か月間にわたる長期インターンシップに参加し、社員の方々と共に新商品の開発・販路開拓に尽力。その成果が高く評価されたので受賞です。12月20日、島田修三学長に報告して、激励の言葉をもらった佐藤さんは「卒業後、就職先で、伝統文化や伝統工芸を若い世代に広め、受け継ぐことで、地域の発展に貢献したい」と力強く語りました。



創造表現学部 荒川洋治教授が 「第70回毎日出版文化賞書評賞」を受賞

創造表現学部で教鞭を執る荒川洋治教授は、現代詩作家、文芸評論家としても活躍され、多数の詩集やエッセー集などを書かれていますが、今年の新刊『過去をもつ人』は、毎日新聞「今週の本棚」や学生向け月刊紙『モルゲン』などに掲載された、読書に関する61編と書き下ろし1編からなるエッセー集です。この著書が、優れた著作物や出版活動を顕彰する「第70回毎日出版文化賞書評賞」に輝き、11月25日、東京都内のホテルにて贈呈式が開催されました。荒川教授は、いい作品は、何度文庫になっても、何度書評してもいい。そうした吸い寄せる力を持った作品との出会いを、書評ではなくエッセー集という形で多くの読者に届けたいと語りました。



第3回オープンキャンパスに1906人が来場

9月18日、本年度最後となる第3回オープンキャンパスを開催、学内の雰囲気や施設を体感できる機会とあつて県外からも大勢の方にご来場いただきました。第1・2回オープンキャンパスと同様に、入試相談、キャンパスツアー、特別企画、淑トークなどに多くの参加者の方が集まっています。学科(専攻)相談ブースでは、間近に迫ったAO入試に向けて教員に積極的に質問をする高校生の姿が多く見受けられました。高校生の皆さんは、大学への期待と学生生活に対する意欲を膨らませ、入学後の自分を重ねているようでした。また、保護者の方や付添者の方からも満足したとの声が多く寄せられました。



PTA講演会

11月8日、NPO法人パーソンズ代表理事・岡田有理氏の講演会、「後悔しない生き方」を本校大会議室で開催しました。岡田氏は、35歳の時の定期検診で乳ガンが発覚。手術などの治療をし、その時の幼い娘の悲しそうな眼差しが忘れられず、「検診で救われる命はたくさんある」と考え、検診を広める活動を始められました。「自分の体は自分で守る。検診より手術の方が100倍痛い。今回も何もなく良かったね。」という安心をもらう為にも是非検診を！という言葉が印象的でした。当たり前の反対は感謝など、いろいろな名言も残され、とても内容の濃い講演会でした。



ホームカミングデー

10月15日、今年で8回目のホームカミングデーを開催しました。高校第27回の卒業生が還暦を迎えるのを機に、同窓生が母校に集う日、ホームカミングデー(還暦同窓会)を学校と同窓会が共催で開きました。当日は199人の卒業生と卒業時の担任を始めとする20人の先生方に参加していただきました。学園70周年記念映画の上映、清明館のカフェテリアでの会食や懇談を通して賑やかに旧交をあたためただき、全員の校歌合唱で会は閉じられました。準備を重ねられた同窓会役員と同窓生の方々に深く感謝し、この会が今後も続くことを願っています。



高校文化祭

11月16日、日本特殊陶業市民会館ビレッジホールにて、高校文化祭が開催されました。各クラブは「3年生を送る」という思いのもと、演技・演奏の準備に余念がなく、華やかな舞台をつくり上げました。午前は

演技やダンス部の迫力あるパフォーマンスが観客の心をつかみました。来年度は、会場を東海市芸術劇場大ホールに移しての実施となります。今後も、先輩への感謝の気持ちを含め、観客に感動を与えられる演技・演奏をめざし、生徒は努力を重ねていくでしょう。

11月18日の午後、秋の文化クラブ発表会を行いました。放送部作成のビデオ上映が会場を沸かせることに始まり、合唱部の「365日の紙飛行機」の発表、フルート同好会「見上げてごらん夜の星を」、吹奏楽部「情熱大陸」、管弦楽部「ハンガリー舞曲第6番」、ギターマンドリン部「STAR WARS」、ダンス部による圧巻の「学園ドラマ」と

発表が続く、最後をかざったのは演劇部の「未完成」という劇でした。また幕間には、自然科学部の生徒が紙で作ったX・ジャイロを、シューターを使って舞台上から客席へ飛ばすという新しい試みもありました。部活によっては部員の増減はありますが、日頃の練習を積み重ねた結果の質の高い演奏や発表になっていました。

中学校秋の文化クラブ発表会

11月18日の午後、秋の文化クラブ発表会を行いました。放送部作成のビデオ上映が会場を沸かせることに始まり、合唱部の「365日の紙飛行機」の発表、フルート同好会「見上げてごらん夜の星を」、吹奏楽部「情熱大陸」、管弦楽部「ハンガリー舞曲第6番」、ギターマンドリン部「STAR WARS」、ダンス部による圧巻の「学園ドラマ」と

発表が続く、最後をかざったのは演劇部の「未完成」という劇でした。また幕間には、自然科学部の生徒が紙で作ったX・ジャイロを、シューターを使って舞台上から客席へ飛ばすという新しい試みもありました。部活によっては部員の増減はありますが、日頃の練習を積み重ねた結果の質の高い演奏や発表になっていました。



2017年度入試説明会

10月22日、中学校入試説明会を実施しました。午前中は6年生を対象に、午後は5年生以下の児童を対象でした。午後の参加者には6年生も多く見受けられ、例年になく多数の参加者があり、午前午後合わせて1358人になりました。アリーナでは午前は吹奏楽部、午後はギターマンドリン部の演奏に始まり、

校長挨拶に続いて副校長の入試説明。その後、教室では昨年度の入試解説の視聴や、校内見学。卓球部の体験には多数の方の参加があり、東ラウンジでの個別入試相談には午後も午後も長い列ができました。参加者からは1月29日の入試に向けての緊張感と熱い思いが伝わってくる説明会でした。

